

子ども教育学科

Faculty of Childhood Education

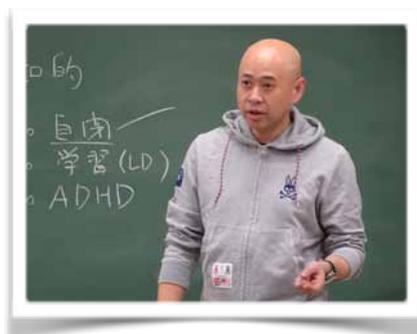


受験生へのメッセージ

障害や虐待、貧困などにより特別な教育的ニーズを抱える子どもを指導する上で大切なのは、まずその子どもをしっかりと“知る”ことです。表面的な行動に左右されるのではなく、その子どもの内面にある本当の“思い”を的確に理解し、その“思い”にとことん寄り添うことで、その子どもを本当に“知る”ことができます。

障害や虐待などに関する知識や指導法を学ぶことは最低限必要になりますが、それに留まるのではなく、自らの“目”を養っていくためには、もっともっと深い学びが必要になってきます。知識の量を増やすだけでなく、自分自身の教育観、子ども観をしっかりと確立することが大切なのです。

特別な教育的ニーズを抱える子どもたちに対して指導できる専門性をもつことができれば、すべての子どもたちに的確に対応できる教育者・保育者となっていけると、私は思っています。



准教授：博士（教育学）

児嶋 芳郎

コジマ ヨシオ

担当科目

特別なニーズ教育および保育論
障害児教育
障害児保育

問い合わせ先

kojiman@hcu.ac.jp

座右の銘

「知った者には責任がある」

そこに問題があると認識した者には、その問題を解決するために努力する責任が生じると私は思っています。私は、障害のある人々を取り巻く状況に多くの問題があることを知りました。なので、その問題の解決に向けて一歩でも歩を進めることができるようにと、微力ながら障害児教育の研究を進めています。

Q 学生との思い出、うれしかったことは？

大学祭やオープンキャンパスなど、学生のみならず、一つのことをつくりあげていく機会がいくつもあります。途中にはさまざまな困難がありますが、学生たちが最後までがんばる姿、できた時の晴れ晴れとした姿を見ると、とてもうれしくなります。

そして、学生自身の成長を実感できる瞬間は私にとってとてもステキな時間です。

Q 都市学園大学の教員でよかったなあと思うところは？

本学2号館1階にはこどもケアセンターがあり、広島市から選定を受けた公募型常設オープンスペース“い〜ぐる”を運営しています。大学の校舎内にオープンスペースがあるのは全国でもめずらしいことです。

毎日、地域の乳幼児が保護者の方とともに遊びに来てくれていますが、そこで毎週、子育て相談に携わっています。実際の子どもたちの姿を目にし、保護者の方たちの悩みに寄り添う経験を通して、自分自身の研究の方向性を考えることができるのは、とても貴重なことだと感じています。

“授業紹介”

特別なニーズ教育および保育論

通常の教育環境では、十分に成長・発達することができない子どもを特別な教育的ニーズを抱える子どもと言います。特別なニーズ教育の対象は、発達障害などの障害児のみではなく、被虐待児や日本語を母語としない子どもなど、広範囲にわたります。

本講義では、特別なニーズ教育に関する単なる知識の習得だけではなく、同年代の障害のある若者との交流も交え、実感をともなった学びの場としています。